私の政治の始まりは、まちづくり構想策定から

自治会のスポーツ委員会の代表を務めた縁で、平成20年に大矢知地区まちづくり構想策定委員会が組織され部会長として構想をまとめ、田中市長（当時）に提出し、これが後に議員にとなるきっかけとなりました。

構想の中では、朝明川は水質が良く、生き物にも恵まれていますので、川に入って子供たちが遊び学ぶための公園化を進めています。他に里山保全、歴史文化の継承、身近なふれあいの場づくりと各プロジェクトが活発に活動し、次世代に様々な遺産を伝える努力をしていただいています。まさに地域の力をアクセル全開で発揮しているのです。

この経験を全市的に広め、市民が共働する未来をつくるために、議員は率先して活動に参加すべきと考えます。政治家を志した訳では無いのですが、自治会の役をやっていて、気がつけば議員になっていました。

また、人口21,419人（R4年末）の大矢知地区には中学校が無く、自転車での危険な遠距離通学、１地区から４つの中学校へ分かれての進学、小学校の施設問題等の教育問題が私が取り組む大きな課題です。

８年間で議会基本条例による市政報告会を182回開催

街宣活動やビラまきも政治の一つの形ですが、一方通行です。市の行事としての市政報告会を初当選以来８年間で182回開催しました。市民との意見交換が一番大切と考えます。

プロフィール

荻須 智之【おぎす ともゆき】

昭和36年3月31日	三重県四日市市生まれ
昭和48年	四日市市立大矢知興譲小学校卒業
昭和51年	私立暁中学校卒業
昭和54年	三重県立四日市高等学校卒業
昭和58年	国立名古屋大学工学部機械工学科卒業
	大豆卸売・機械販売業 サントウ商事株式会社入社
平成３年	サントウ商事株式会社社長就任（現職）
平成17年～26年	三重県水泳連盟常務理事
	四日市市立大矢知興譲小学校特別非常勤講師 水泳授業
平成19年～26年	四日市水泳協会理事長
平成22年～	四日市沿岸遊漁船クラブ会長
平成23年～	第４管区海上保安本部海上安全指導員
	日本赤十字社水上安全法指導員Ⅱ
平成27年	四日市市議会議員当選（現在２期目）
平成27年～	四日市水泳協会副会長
平成28年	防災対策特別委員会副委員長
令和元年～２年	総務常任委員長
令和３年～	四日市港管理組合議会議員

趣味

水泳。小学校から始めた競泳で、大学まで水泳部に所属し、現在もトレーニングを継続中。

戦績：平成22年度三重県スポーツフェスティバル50歳代50メートルバタフライ優勝。

英会話・音楽鑑賞・釣り（主にスズキ）・下手な料理

着衣泳 浮き身

子どもの広場 草刈り

おぎす智之 後援会事務所

〒510-8034
四日市市大矢知町1072-1
TEL.059-361-1347
FAX.059-361-1348
mail：to.ogisu@gmail.com

入会申し込み　ホームページ

討議資料

四日市市議会議員

おぎす智之

請願第１号選択的夫婦別姓制度に対しては慎重なる検討を求める意見書の提出についての賛成討論

令和３年６月議会にて、夫婦別姓は慎重に検討するべきとの意見書の提出に、賛成討論しました。日本の習慣では旧姓の併記と通名が認められているので、女性の地位が低いために嫁ぎ先の苗字がもらえない大陸的悪習慣を真似する事に異議を唱えました。

中華人民共和国による人権状況に対する調査及び対応を求める意見書を作成、提出

令和４年２月議会にて新疆ウイグル自治区での人権弾圧を念頭に、国会に調査と対応を求める意見書を提出すべく、荻須が作成し、川村幸康政友クラブ代表に代表者発議して頂きました。可決され、国会に提出されて国会決議につながりました。

「ウイグルを応援する全国地方議員の会」ふれあいモールにて

高齢化社会、経済格差、労働力不足、脱炭素社会

これら全てに対して、デジタル革命（DX）は早急に進めなければなりません。私は当市で初めてオンライン視察を試行し、一般質問で公会計改革と電子図書館の整備を取り上げてきました。特に小中学生全員がタブレットを家に持ち帰るのに、電子図書館がまだないことを指摘し、昨年の２月、６月定例月議会で導入を早めるように要望をいたしましたら、新図書館の開館に合わせて電子図書館も開館するとした市の予定が早まり、令和５年度当初予算案に5,800万円の概算事業費が示されました。電子図書館は音で聴くこともできるので、読書の概念が変わりますし、子供たちの学習に大いに活用できます。今後も議員は新しい技術、媒体について学び、他市町に先んじての活用を心がけるべきです。

四日市港管理組合議会での活動
カーボン・ニュートラル・ポート構想

（炭酸ガスを出さない港）に対し水素やアンモニアの輸入基地を建設するための用地の確保を提言しています。埋め立てを含めて国の事業になりますので、国会議員との連携が不可欠です。名古屋港周辺では、まとまった工業用地が無いので早く準備できた港が勝ちます！

食の安全を守れ！

農薬を含む危険な食材と水道水

家業は大豆問屋で40年間商いを続けています。米国、カナダから輸入された大豆と小麦には、刈り取り前に散布された除草剤のラウンドアップの成分が含まれます。米国では発ガン性と発達障害の原因とされており、ラウンドアップが市販されているのは日本だけです。また、日本の水道水には取水場所と季節によって、殺虫剤のネオニコチノイド系農薬が含まれ、学校給食の食材も例外ではありません。

韓国のように有機農産物による学校給食を無償で実現したいものですが、今は日本で有機農産物と言えるものは１％もありません。しかし、学校給食に無農薬の野菜や米を使っている市町が増えています。日本の農業を有機農業に向かわせるべきで、市に無農薬栽培農家への支援を訴え、家業では県内の農地で大豆の無農薬栽培を22年間実践しています。（令和４年度実績 87ヘクタール）

ホームセンターで売られているネオニコチノイド系農薬
米国、EUでは使用禁止

急増する発達支援が必要な子供たち

特別支援学級、通級の児童生徒が全国的に爆発的に増加中で、黒田洋一郎、純子博士夫妻、平久美子博士は前述の農薬との関連性を指摘されています。12月の中日新聞に、これらの児童が8.8%にもなっているとの記事が載り、一刻も早く食材と水を吟味すべきです。

これは未来の労働者人口が実質的に減っているとも言えますので、何をおいても対策を早く進めるべきです。また、発達支援の対象児童は適切な支援で立派に成長できますから、増加する対象児童にしっかり対応することも急務です。私は令和３年の11月議会から警鐘を鳴らしています。

小学校水泳授業の民間委託を実現

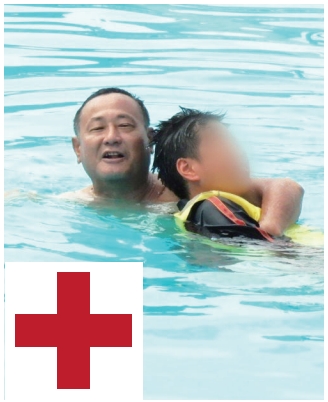
特別非常勤講師の経験から、一般質問でスイミングクラブへの水泳授業の委託を勧めてきましたが、本年度から市内２校の５年生で試験的に始まりました。今後全市に広げて、水泳技能の習得で児童間に差が出ないように教育機会の均等化を進めます。

ふたたび死の海となった伊勢湾

昨年９月に高松海岸沖で潜り、海底の水と表層水、米洗川河口の水を採取し分析しましたら、８種類の殺虫剤が検出されました。海の草アマモの減少と、アサリ、コオナゴ、エビ、カニの漁獲量の減少は上記の農薬の影響ではないか？と指摘しました。（東京大学の山室真澄教授、長崎大学の桑野和可教授の論文引用）

高松海岸沖での調査

水泳指導と日本赤十字社での講習活動

今も水泳のトレーニングを続けており、指導のための勉強も様々な面で市政に活用しました。健康づくりには運動が欠かせません。自らが健康である事は政治家の義務でもあります。自分が実践した自転車競技と競泳は、糖尿病予防、介護予防に最適なスポーツです。今後も百歳体操に加えて、持久的な運動の習慣化を広く市民に啓発します。

日本赤十字社の水上安全法指導員の活動では、救急法、水中での救助法、心肺蘇生法の指導をしており、着衣泳の指導も各小学校で行って参りました。